日清紡Gとネスレ日本

紙製包材などが衣服に

アップサイクル取り組み開始

ネスレ日本（神戸市）と日清紡グループの商社、ニッシントーア・岩尾（東京都中央区）は、このほどコーヒー飲料の使用済み紙製包材とコーヒー抽出後に発生するコーヒーかすを繊維原料と染料として再利用し、衣服にアップサイクルする取り組みを開始する。両社によると、古紙から再生した紙糸を使った繊維製品をコーヒー由来染料で染める試みは業界初になると言う。

今回の取り組みでは、ネスレ日本の紙製詰め替え容器「ネスレカフェエコ&システムパック」の使用済み容器から紙糸を作り、繊維製品の原料にする。使用済み容器を回収するために全国のスーパーマーケットなどと連携し、回収ボックスの設置を進める。

染色加工業の艶金（岐阜県大垣市）が持つ「のこり染め」の技術を応用して、ネスレ日本直営カフェでコーヒー抽出後に発生するコーヒーかすを染料として再利用する。色素抽出後のコーヒーかすは発酵させて植物性堆肥として利用する。

まずは紙製包材とコーヒーかすをアップサイクルして製造したTシャツとエプロンをネスレ日本の直営カフェ「ネスレカフェ原宿」などのユニフォームとして採用する。使用済み紙パックの回収に協力した消費者にも還元する取り組みを予定しており、将来的にはアップサイクルした繊維や染料を使った製品を日清紡グループを通じてアパレル企業に供給することも検討している。

世界最大の食品飲料企業であるネスレは2025年までに包装材料を100%リサイクル可能かリユース可能にすることを掲げ、バージンプラスチックの使用量も3分の1に減らすことを宣言している。この一環として日本法人のネスレ日本も主力製品の包装材料をプラスチックから紙に変更した。一方、日清紡グループも「環境・エネルギーカンパニー」を掲げ、繊維事業でも水や薬剤の使用量削減や廃棄物リサイクルに取り組んでいる。

今回、両社の知見とそれぞれの強みを生かすことで紙製包材とコーヒーかすのアップサイクルが実現した。

アップサイクルして製造したカフェユニフォーム